

平成 1 6 年度収支決算報告

(平成 1 7 年 3 月 3 1 日 現在)

収支決算について

収支計算書

正味財産増減計算書 (財産増減事由書)

貸借対照表

財産目録

監査報告書

社団法人 全国大学体育連合

平成17年5月20日

総務部

収 支 決 算 に つ い て

平成16年4月1日から平成17年3月31日まで

公益法人会計基準に準拠した、会計処理に務めた。

一般会計と特別会計を総括した総括表の収支についての要点は以下のとおりである。

1. 収 入

1) 入会金収入

個人会員は6の入会があり、収入額は6万円であった。

2) 年度会費収入

年度会費収入額は、23,450,000円（納入状況の内訳は下表）であった。尚この収入には過年度分年度会費収入180,000円が含まれる。

	国公立総合	国立単科	私立総合	私立単科	短期大学	個人
会員数	56	22	95	140	87	46
納 入	54	20	94	138	86	43
未 納	2	2	1	2	1	3

3) 事業収入

教材ビデオの販売は153,800円（4本、前期は6本）、刊行物の実費頒布について36,410円であった。

4) 預金利息収入

低金利により、8,743円の利息であった。

5) 繰入金収入

一般会計から特別会計に繰り入れた（「特別会計」の収入）もので、予算額に比して1万円弱の減となっている。

6) 当期収入

以上の結果、当期収入合計は24,057,388円となり、予算額に比して7,839円の減となっている。

7) 前期繰越収支差額

前期精算（前年1月31日現在）時点で見積もった予算額に比して、130万円余の増が当期に繰り越された。

2. 支 出

1) 運営費・一般運営費

「一般運営費」は、予算額に比して12万円弱の支出超となったが、予備費から12万円を

流用した。

人件費は、101,198 円の支出超となった。超過勤務等がその主な内容である。

顧問報酬費、賃貸費、消耗品費、水道光熱費、雑費は、ほぼ予算の通りに執行した。理事会、総会費は 6 万円余の残となった。アルバイトを少なくする等経費節減に努めたことによる。

会議費は、役員交代に伴い会議が増えたことにより 46,931 円の支出超となった。

旅費交通費は、役員交代に伴い総務部役員の事務所での仕事が多くなったこと等により、119,023 円の支出超となったが、予備費から 12 万円を流用した。

慶弔費は、1.6 万円強の支出超となった。以前に役員を務められた 2 氏が逝去され、葬儀に際して生花を供えたことによる。

印刷費は、2 万円余、通信運搬費は、6 万円余の残となった。節減に努めたことによる。

図書費はデータベース作成のために全国大学一覧、全国短期大学一覧を購入し、1,050 円の支出超となった。

備品費は、議事録作成等のためボイスレコーダーを購入したことにより、20,800 円の支出超となった。

2) 事業費・一般運営費

「一般運営費」は、予算額に比して 94 万円弱の残となった。

機関誌については、「大学体育」3 つの号を発刊した。

前期末に発刊した論文誌「大学体育学」創刊号の費用を、当期初めに支出した。

会員増強費は、新入会員補充のための広報活動のものとして新たに設けた科目であり、481,280 円の支出をした。予算については予備費から 50 万円を流用した。

F D 評価関係費は、22 万円余の残となった。記念品の費用が少なく済んだことによる。

図書刊行費は、『体力測定結果調査報告書』の発刊が遅れ、発刊費の支払いは次期に繰り越したので、35 万円が残となった。

教材フィルム作成費は、販売した 4 本の作成費用 82,300 円を支出した。

会議費、事業運営雑給費、消耗品費は、ほぼ予算の通りに執行している。

シンポジウム開催費、表彰関係費、ホームページ作成費、印刷製本費、雑費は、予算に比してかなりの残となっている。経費節減に努めたことによる。

旅費交通費は、支部長会を夏期研修会の前日に行ったため、前期に比して宿泊費の支出が増えたこと等により、331,542 円の支出超となった。

通信運搬費は、4 万円強の残となっている。発送物をできる限り機関誌「大学体育」発送時に同封し、また、諸会議等の連絡をインターネットを使用して行っているなどからである。

3) 事業費・研修事業費

「研修事業費」は、予算額に比して 8.5 万円余の残となった。

研修会補助金支出の残は、中央研修会収支残金の返金による。

研修会調査準備費は、予算の通りに執行した。

印刷費は、1 万円強の支出超となった。

研修会企画調整費は、夏期・冬期の研修会企画に関わるものであり、2 万円弱の残となった。

支援補助金は、2 団体にそれぞれ 10 万円、ICHPER・SD アジア大会組織委員会に 15 万円を交付した。

4) 事業費・研究調査費

「研究調査費」は、予算額に比して 12 万円弱の残となった。

研究助成費は、3 件にそれぞれ 20 万円を助成した。

検討会議費は、役員交代に伴い会議が増えたことにより 4,000 円の支出超となった。

印刷製本費は、当期は新たに体力テストの調査用紙を増刷したこと等により 33,590 円の支出超となった。

通信運搬費、消耗品費、研究調査雑給費、図書費の残は経費節減に努めたことによる。

5) 事業費・支部補助金

予算額のとおり、各支部へ補助金を交付した。

6) 事業費・国際交流費

「国際交流費」は、2 万円余の支出超となった。

国際会議費は、ICHPER・SD の年会費に係わるもので 22,716 円を支出した。

海外研修費は、ICHPER・SD(鹿児島開催)に 5 名の役員を派遣したため 33,950 円の支出超となった。

7) 繰入金支出

一般会計から特別会計に繰り入れた(「特別会計」の収入)もので、予算額に比して 1 万円弱の減となっている。

8) 当期支出

以上の結果、当期支出合計は 24,380,607 円となり、当期支出予算中の予備費を除いた支出合計額 25,502,877 円*に比して 1,122,270 円の残となっている。

* 当期支出予算 36,465,227 円 - 予備費予算 10,962,350 円 = 当期支出予算 25,502,877 円

3. 当期の収支差額と次期への繰越額

1) 当期の収支差額

当期収入合計額は 24,057,388 円、支出合計額は 24,380,607 円で、323,219 円の支出超となった。

当期は 1,437,650 円の支出超の予算であったが、それに比して 1,114,431 円の支出を節減することができた。

2) 次期への繰越額

次期への繰越額は 13,423,066 円となった。「精算報告」(1 月末日現在)では、次期への繰越額は 12,900,000 円と見積もったが、523,066 円の増となった。

繰越額が精算時点における見積額を上まわったのは、収入では会費収入で 12 万円強の増があったこと、支出では「運営費・一般運営費」の見積額に比して 14 万円弱、「事業費・一般運営費」の見積額に比して図書刊行費の計上を次期へ繰り越したことを含めて 18 万円余の残、調査研究費の雑給費が当初予算に比して 5 万円弱に抑えることができたこと等による。

本連合の安定運営のためには、年度会費の納入時期と第 1 四半期の事業遂行との関係から、約 7,000,000 円の繰越額が確保される必要がある。

以 上